

科目名	発達障害心理臨床		担当教員	野村 香代	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	
期待される学修成果	子ども理解 学校と社会				
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	臨床心理士、公認心理師				
実務経験を生かした授業内容	臨床心理士として小中学校の巡回相談を行なう中で、教育現場から挙げられる事例に基づき、発達障害児の困り感や支援のあり方について考える視点を提供する。				
到達目標及びテーマ	発達障害の特徴を、診断基準に従って説明することができる。 また、苦手さや困り感を持つ発達障害児やその家族の心理学的な特徴についての理解を深め、教育現場・社会の中でニーズに沿った支援方法を提案することができる。				
授業の概要	発達障害児へのよりよい教育的支援を行えるようになるために、発達障害の基礎知識を習得し、発達障害児の心理特性および発達障害児に対する心理臨床の実際について学ぶ。				

授業計画	
第1回	イントロダクション：障害とは
第2回	発達障害の概念 知的障害【ID】とは
第3回	自閉症スペクトラム障害【ASD】とは
第4回	注意欠如多動性障害【ADHD】とは
第5回	限局性学習障害【SLD】とは
第6回	発達性運動協調障害【DCD】とは
第7回	学校現場でみられるその他の障害
第8回	支援の基本について
第9回	さまざまな支援方法①
第10回	さまざまな支援方法②
第11回	地域連携と早期発見・早期支援
第12回	家族支援
第13回	グループ発表①：ASD・ADHD児者への支援
第14回	グループ発表①：ID・SLD・DCDへの支援
第15回	講義のまとめと最終レポート

事前学修	2時間	次回の講義に該当する部分を指示するので、テキストを読みこみ、基礎知識に関して整理しておくこと。
事後学修	2時間	講義内容を振り返り、今後の学習や実践につながるように、まとめておくこと。また、関連する新聞記事等を読み、関心を深めていくこと。
フィードバックの方法		①振り返りシート、レポートは、必要に応じてコメントして返却し、質問事項に関しては講義で解説を加える。 ②小テストを実施し、返却して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。 ③グループ発表後に、コメントや補足説明を行う。

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	45%	①各授業後の振り返りシート (15%) ②小テスト (20%)、③グループ発表 (15%)
レポート	55%	基礎知識の習得状況(20%)事例に対する支援方法の提案に関する論述 (30%)で評価する。

定期試験	0%	実施しない		
補足事項				
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料	適宜配布する			